R18
狐と月が
四畳半で
暮らしまして

三日月〜

ピクッ

暇なら
あっちで
呑まないか？

次郎太刀がいい酒手に入れたってさ

オイ、あんた
急に
割り込んで
くんなよな

三日月の
じっちゃんは
いま、俺と
話してんだからさ

おっと悪いな
小さくて
見えなかったぜ

獅子王、
お前も来るか？

ガうっ

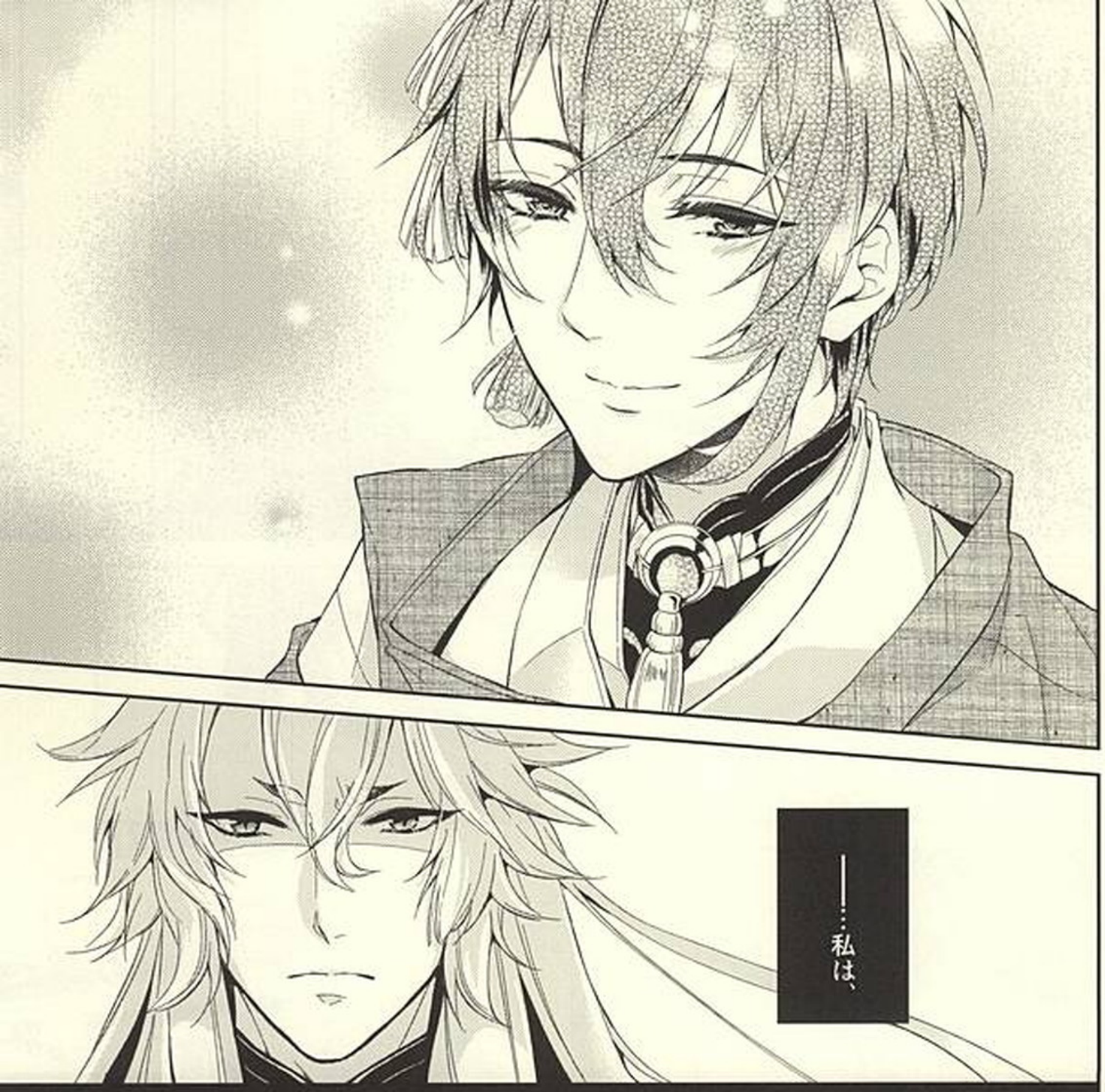
行かねぇし！

じっちゃんは俺と
狩りに行くんだよ！

なんだ共約か？

はっはっは
今初めて
きいたな

……






どうやら
三日月宗近が
苦手らしい

一八五五年
――江戸

――それなのに

あー

まさか
二人きりで遠征に
向かわされるとは…

小狐丸も
食べるか？

いえ、
結構です

もぐもぐ

……そうか

じゅん…

美味しいのだがな…

みか――

おぉ ここだな

俺達にしか見えない紋が浮かんでいる 間違いない

この中でこんのすけを待っていれば良いのだったな？

ガラ

はい

時を越える所をこの時代の者に見られるわけにはいきませんから

なるほど

狭いが情緒があっていいな

ふふ 用意がいいものだ

はー…

相変わらず呑気な奴じゃな

……まぁよい もうしばしの辛抱じゃ

トン

本丸に戻れば
二人きりでは
なくなるのだから

……

ふぁ

んー
……来ないな

ぬしさまに何か
あったのでしょうか

はっはっは、

単に主が
不在なのかも
しれんぞ

時を越える
げえととやらは
主がおらんと
開かんからな

まぁ寝て
待っていれば
そのうち来るさ

心配ではないのですか？
心配した所で俺達だけで時を越えられるわけでもなし
ならば休んで体力を温存しておいた方が良いとは思わんか
……っ
ドサッ
ごろん
ポン
ふふっ
小狐丸は素直だなぁ

三日月！

おやすみ
小狐丸

……
おやすみなさい

ス－…

調子が狂う

やはり苦手じゃ

……
ふむ
今日も来なかったな
これは長期戦になるか
スッ
小狐丸？
物資を調達して参ります
いってらっしゃい
ガッ
!?
ぎゅっ
しばらくここで暮らすことになるかもしれませんから
おお、そうか

にこ
にこ
行って参ります！

ひいふぅみぃ…
これでは暮らすには心許ないな

もしやそれがおぬしの全資金か？
今月の給料分というやつだな

はー
まったく…
団子ばかり食うからじゃ

じー…

それがいい

なんじゃ？

それとは？

俺は敬語より
その喋り方が
好きだ

ドキ

――ッ

くだらぬことを言っとらんでそれに着替えろ
ここで暮らすにはその服は目立つ
ぼふっ
わっ
小狐丸
なんじゃ？
はっはっはっ
脱ぎ方がわからん
……この箱入りめ
ズキ
ズキ
……まったく

先が
思いやられるわ

おかえり小狐丸

ぽふ

まったく…まだ寝る時間ではないじゃろう

……たたむぞ

せまい

待てもう少し――

クイ

!?

みか――……ッ

すまん…
いや、平気だ
俺のせいだしな
それよりどうだ、ふかふかだろう？
……あぁ、そうじゃな
ぼふっ
ぼふっ
ちゃんと教わった通りに干して取り込んだからな
そうか

ポーン

よくやった

ぎゅ

ズッ

あ

……短刀達の気持ちがわかった気がする

くちっ

なんじゃ
まだそこまで
寒い時期でも
なかろうに

おぬしは
寒がりじゃな

にこっ

小狐は
暖かそうだな？
この辺りがとに

貸さんぞ
しし

むぅ
けち臭い

はー…

三日月
近うよれ

うん？

ふわっ

風邪をひかれてはかなわんからな

これで許せ

トクン

少しは仲良くなれたと思ってよいのだろう
ただいま帰った

三日月

ばしゃ

この時代にいる敵に気づかれたか？

それとも…

本丸が敵に占拠されてそれでここに…

三日月はどこへ行った？

ザッ

雨の匂いで三日月の匂いを上手く追えぬ…

どうか無事でいてくれ

あまり家を空けてるわけにもいかんし
冷えてきたし
咄嗟に隠れたはいいが…
やみそうにないな
くちっ
走って帰るべきか？
だがそうするとせっかく買ったおあげが濡れてしまうな
……小狐丸
喜んでくれるだろうか

その前に怒られそうだ
しし
我ながら掃除もろくに出来んとは…
三日月！
ばしゃん
はー
はー
おー
こぎつね今帰りか？
奇遇だな

ふわっ

無事で良かった

無事？
何の話だ

部屋が荒れて
おったし何か
あったのでは？

あ…

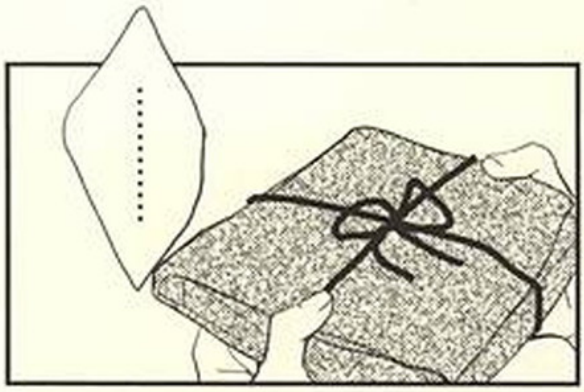
はははっ…

掃除をしようと
したんだが
散らかってしまってな

すまんな

なら何故
こんな所におる

買い物の帰りに
降られて
しまってなぁ


……

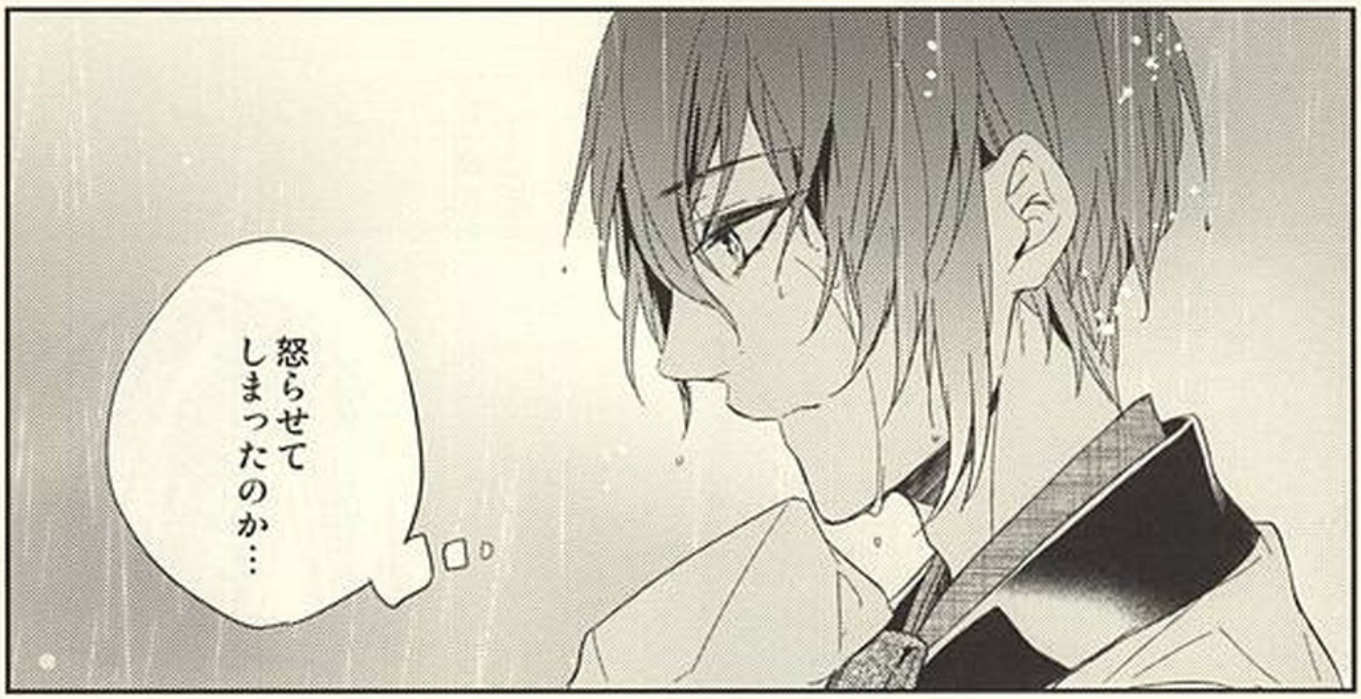
ぎゅ

小狐丸？

くる

パタパタ

……


怒らせて
しまったのか…

ただ
もう一度
あの手に
触れて欲しくて

笑って
欲しくて…
ようやく
仲良くなれたのに

また嫌われて
しまうだろうか――……

ぼーー…

くちゅん

くちっ

顔が赤い

風邪でもひいたか

傘も持たずに探しに行くのではなかったな…

いや、こんな日に傘も持たずでかけるからじゃ

朝から天気は悪かったというに

私は悪くない

三日月

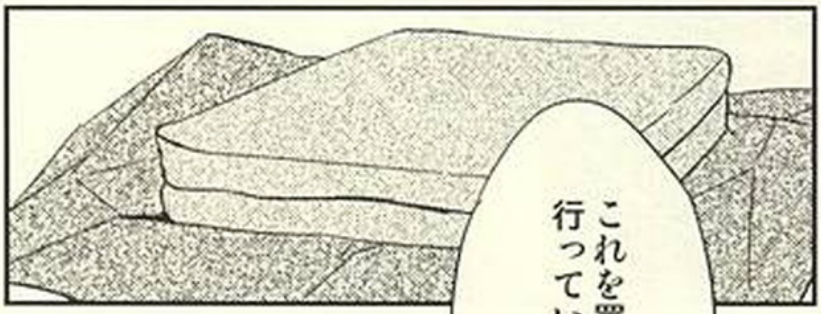
ん？

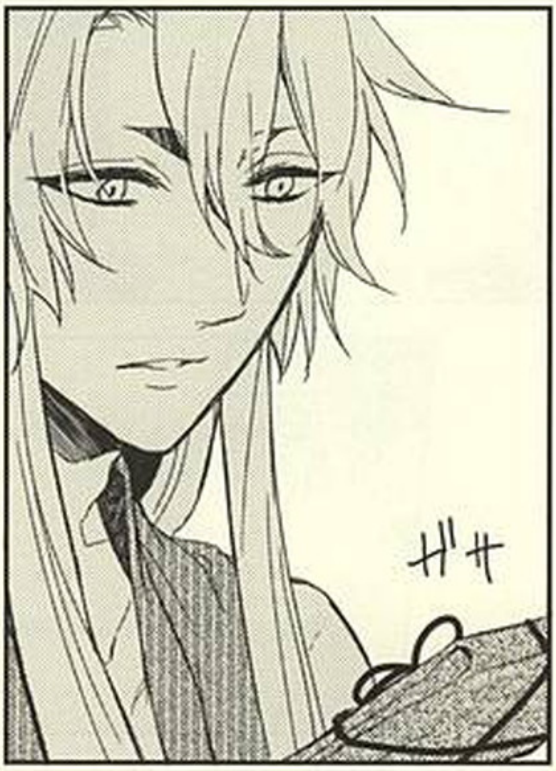
はよう寝ろ

風邪が悪化するじゃろう

……これを

その、よければ後で食ってくれ





お前と仲良くなりたかったんだ

兄弟だからな

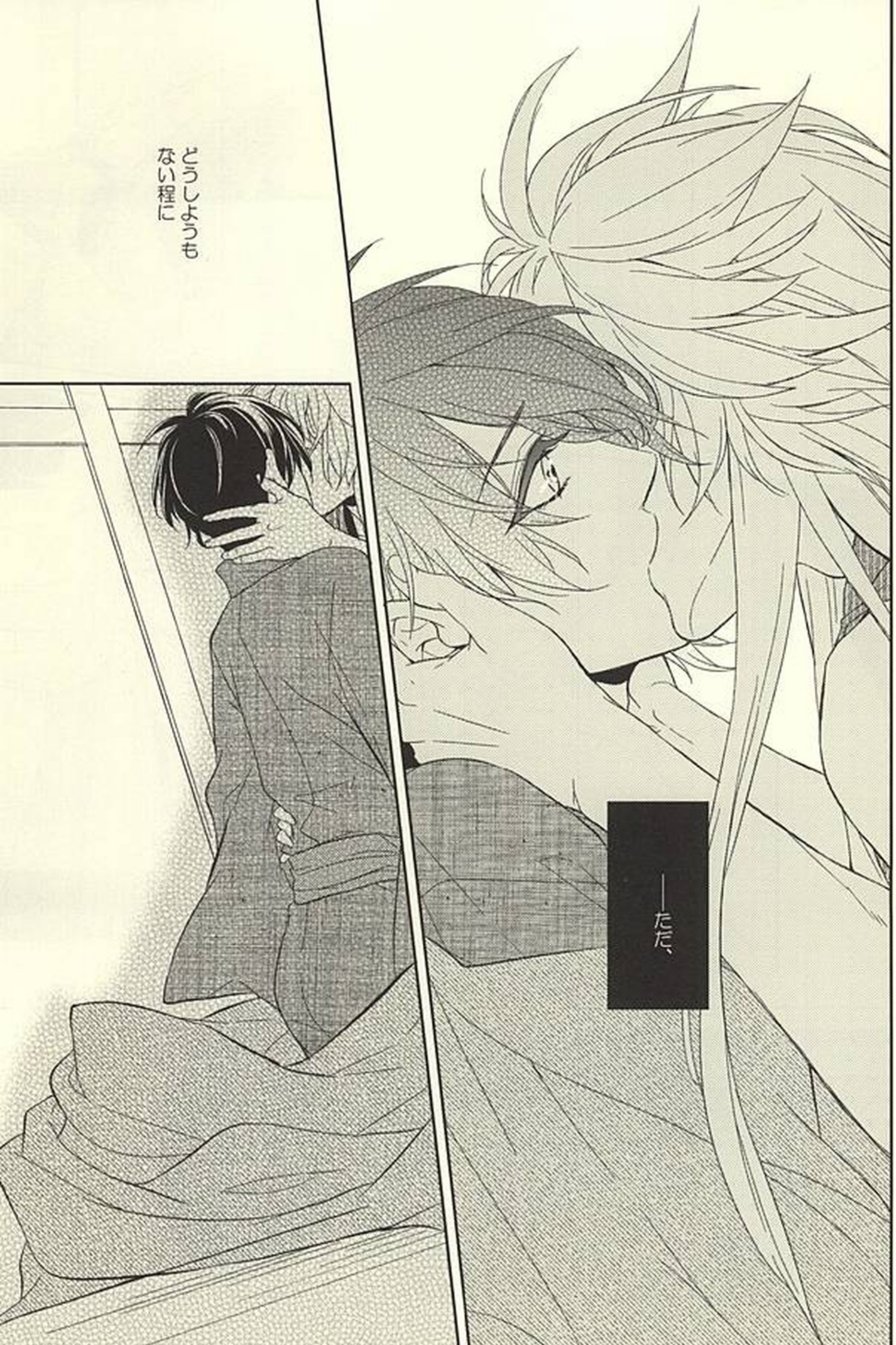
——あぁ、そうか
やっとわかった

三日月を見る度
苛立っていたのは

他の者といる所を
見るのが
嫌だったからじゃ

言動ひとつで
振り回されて

心を乱されるのは
苦手だからではない


どうしようもない程に
—ただ、

すまぬな
三日月
私はおぬしと
仲良くする気はない
ッ

三日月を恋うて
おるからじゃ

こぎ、つね…

は

は

んっ

ガリ

ビク

は…、ぁ

ちゅ

ちゅっ

あっ

んっ…

ぎゅ

あ…っん

ちゅう

ふぁ…あ、

ッ

あっ…

ぐっ

あっ！

小狐、そこは――ッ

ぬるっ

ひっ、

くちゅ

くちゅ

あ、あ…っ、だめ…ッん、ぅ

ふっ

あっ、こぎ、つね…ッ

ふぁ

あ、

ぎゅ

くち

くち

あ…んぅ

ん、

ちゅ

ちゅ

ふぁ

三日月、力を抜け

ぐっ

!?

ぱっ

くーッ

三日月

噛むなら私を噛め
あ
ぐぷっ
ぐちっ
んっ、
ゴリ
んん…ッ
ぎゅ
ずるっ
ー…

あっ
入れるぞ
待――……っ！
あ、
あッ
ん
あ…
くっ
……
や、ぁ…
は…ッ
……ッ
あっ
あっ
あっ
あッ
あ
ビクビク
ズズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

……く、
っ、
ビクッ
ビク
ぐちっ
あ

ふる…
こぎつね…っ
腹が、苦し、い
っ、
はっ…
しばしの辛抱じゃ

すぐよく
してやろう

熱い

繋がった
唇、指先

触れ合う肌の
全てから

与えられた
熱に浮かされ

全てが白く、
――小狐の色で
染まっていく中

三日月、
好きじゃ

……あぁ、
そうか

良かった

ただひとつ、
聞こえたその響きに

ひどく安心したのを覚えている

三日月、熱はどうだ？

トクン

スッ

やあああ

トクン…

トクン

好きじゃ

三日月？

昨晩のあれは
つまり……
そういう
意味、か

パッ

トクン

顔が熱い

心臓が煩い

トクン

すまぬ、
私が無理を
させたせいじゃ

小狐丸の顔が
見れない

兄弟として
慕っていた
はずなのに

なんだこれは

迎えが来るまで
あと三日と一刻

狭い四畳半に
二人きり

もうしばらく
熱は下がりそうにない

# 狐と月が四畳半で暮らしまして

TOUKEN-RANBU FANBOOK#07
KOGITSUNEMARU*MIKADUKI MUNECHIKA
TSUKI-KOI | miyu | http://tsuki-koi.com/